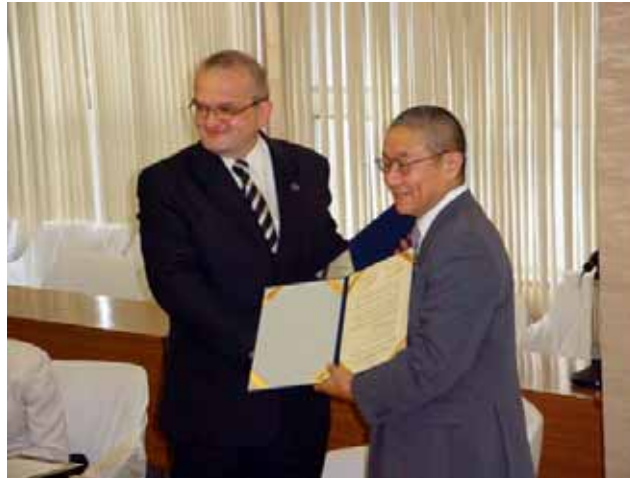


## ベラルーシ医科大学（ベラルーシ共和国）との学術交流協定を更新



調印式後のパベル・ベスパルチュック学長と齋藤学長

7月25日(火), 本学とベラルーシ医科大学との学術交流協定を更新する調印式が行われました。同医科大学のパベル・ベスパルチュック学長が21世紀 COE プログラム「放射線医療科学国際コンソーシアム第2回長崎シンポジウム」に出席するため来学された機会に調印式を行ったもので、片峰理事, 朝長医歯薬学総合研究科長, 山下医歯薬学総合研究科教授及び高村助教授, 同医科大学からユーリ・デミチク教授立会いのもと, 齋藤学長とベスパルチュック学長が協定書に署名を行い, 学術交流協定が締結されました。本学が海外の大学等研究機関と締結している学術交流協定は今回の更新も含めて84件になりました。

ベラルーシ医科大学は, 1986年のチェルノブイリ原発事故で甚大な被害を受けたベラルーシ共和国の首都ミンスクに位置し, 1921年に創立された同国でもっとも古い伝統を持つ医科大学で, 本学と同医科大学との交流は, 本学医学部が旧文部省, 外務省及びチェルノブイリ笹川プロジェクトの枠内で専門家を現地に派遣したことから始まり, 1996年5月に医学部と同医科大学との学部間学術交流協定が締結され, 教員及び研究者の交流, 1998年から現在に至るまでのリサーチセミナーの一環としての医学部学生の短期留学, 長崎ヒバクシャ医療国際協力会(NASHIM)の外務省補助事業によるロシア語の教科書の出版, インターネット上における医学教育コンテンツの作成, 配付のための基盤整備等を行ってきました。

このように, 研究, 教育分野において多くの実績を挙げており, また今後も継続的な協力体制を構築することにより, さらなる成果が期待されるため, 2001年7月に大学間交流協定として締結した学術交流協定を更新するに至りました。

今後は, 医・歯・薬学分野での共同研究・教育, 特にチェルノブイリ原発事故後20年, 同時に21世紀 COE プロジェクトの最終年度でもあり, 新しい学際複合領域での社会経済, 臨床心理学的な連携と関連会議などが計画されており, 今後5年間の間に両大学の他学部の研究者交流や学生交流へと発展することが期待されます。

(研究国際部学術国際課)